

## 卒業60周年記念誌 感想と近況報告

\*氏名の横に？が付いている方ははがきが無記名のため、消印等で氏名を推測した方です。違っておりましたら、お許しください。

### 青木 淳さんの奥様：

いままで、お世話になり、ありがとうございました。  
主人は深志愛にあふれていました。これからも、ますます発展されますこと、お祈りいたします。

### 青木忠孝：

短期間によくまとめられたものだと感心しています。ご苦労様でした。  
皆80歳になろうとしていますので本音の部分が吐露されて興味深く読んでいます。  
4月から松本市高齢者クラブ連合会の副会長となり、予想以上に時間をとられちょっと閉口しています。

### 青山洋子：

60周年記念誌本当に立派な記念誌となりました。  
特に word に入力して（4割もいたとか、私もその一人ですが）デジタル化するのは大変なことで、伊藤さんには本当に感謝です。ありがとうございました、お疲れ様でした。

スペインバルセロナに赴任中の娘一家が本社に業務報告に訪れ、その帰りにくっついてスペイン、イタリアなどに行って来ました。3月22日～4月8日まで、東京では前後3泊、時差もありましたが、元気で行って来ました。

5月28日一日中大雨でしたが、以前から計画していましたので、佐久地方に行って来ました。特にぴんころ地蔵はしっかりお参りして来ました。

### 蟻川孝徳：

皆様お疲れ様でした。立派な文集をありがとうございました。

## 石谷美智子：

60周年記念誌が、このように立派なかたちで届けられ、感動しています。松本が遠くなりましたが、この記念誌が思い出を甦らせてくれます。文集のためにお骨折り下さった皆様ありがとうございます。事務局のご苦勞に敬意を表します。

「深志」とは何といい名前でしょう！

## 石原繁子:

待ちに待った記念誌を手にししました。

白い表紙に美しく映える懐かしい母校！！ 想像以上の厚みのある立派な記念誌です。

小野先生の寄稿文に高校時代クラスではその姿を見かけることの困難だった福島さんが先生の精神的な若さを支えるのに、ひと役？ふた役買っていたのを知り同級生として誇らしく思いました。

記念誌の第一ページを飾った青木（金井）淳さん、信州弁丸出しの平林先生への問いかけとその文章に、今年一月に亡くなった事を知りながら、思わず笑ってしまいました。そして高校一年生の金井さんを懐かしく思い出しました。

お一人お一人の高校時代の思い出、卒業後の60年の歩みを拝読させていただきました。読み終わって記念誌は一層重く厚みのある記念誌となりました。

これから後、どのくらいの時間が残されているのかわかりませんが、同期の皆さまの日々の歩みが守られ平安でありますように願っています。今回投稿を許されなかった同期の仲間達から感想のハガキが届くと良いですね。そしてお変わりがないことがわかると嬉しいですね。

## 磯部 章:

大作を有難う御在居ました。知恵と手間をかけての編集活動に感謝です。昔、私も深志の校友誌の編集に携わることがあり、その大変さに思いを馳せました。

当方、いまのところ月に数回のゴルフを楽しんでいます。

## 伊藤光幸:

苦勞が報われて、満足の出来る記念誌となった。

### 伊藤 稔:

記念誌について: 昨年の記念集会に参加して楽しい・思い出深い日をすごさせて頂きありがとうございました。また、事務局・幹事・委員らの献身による記念誌第3集の発行ありがとうございました。今日も楽しく読ませていただいています。懐かしいことや皆さんの頑張ってきた姿、示唆に富む言葉などを拝見すると自分もまだまだ頑張っていかなばと気持ちが新たになります。またの機会がありましたら、是非声をかけて頂くと嬉しいです。

近況: 神奈川から名古屋に転居してちょうど1年。この齢での引っ越しは辛いものがある。最初は店も分からず外に出れば迷子になり、慣れぬ6車線道路で運転に気を使い、見たことない近所の顔に恐る恐る声をかけ、ずいぶん寂しい思いをしたが、最近やっとグランドゴルフで顔なじみができはじめた。しかし病院医院探しは手つかずで、病気さんにはしばらく、いや永久に待って欲しいと願っている。今のところ元気に、極ちっぽけな野菜畑で害虫と毎日戦っています。

その他: 名簿を見て連絡取りたい仲間がいる場合、事務局にメールか電話すれば連絡先を教えていただけませんか。

### 岩垂雅子:

この度は、立派な文集を拝受し、恐縮に存じます。卒後60年、波乱万丈な皆様の歩みに心を打たれました。半面、この間に多くの方が亡くなられたことも知り、胸が痛みました。卒後、個人的には小林有也先生のお墓参りを果たしたり、母校を訪れたりしたことはありましたが、催して下さる会合には一度も出席することはありませんでした。不義理を心からお詫びいたしますと共に、長い間役員をされました皆様にも深謝申し上げます。ありがとうございました。

### 植原重克:

頑張っている。ルーペ片手に。記念写真 このルーペでどこまで？  
嬉しくなつかしい記録たち 編集委員 幹事の皆さまに 幾重にも感謝します。  
ありがとうございました。

赤とんぼ足跡60年ふみかえし アルプス下ろし耐え歩み行き  
温暖化地球に自由と自治を！

令和6年5月20日 (たいら)

### 遠藤正明:

文集「蜻蛉ヶ丘に集いて」を戴き、百瀬 武様、方々のご尽力に感謝です。豪快な深志男児の生き様には 今、わたしには感動を持った洗濯(?)です。

### 小穴孝子:

お世話になりました。ありがとうございました。

### 小口朋子:

卒業60周年記念誌拝受いたしました。当初伺っておりました投稿数を遙かに超える方々が寄稿されていてびっくりしました。編集に携わって下さった方達への同期の方々の感謝と母校への濃い思いが響き合っただけで胸が熱くなりました。

傘寿を迎えるこの頃 様々なお別れが増えています。淋しさと老いを重ねていくことの不安との共連れの日々です。そこへ60周年の記念誌をいただきましたこと不思議な感じでした。初めて出席したのに忘れ物をしてしまう程の幸せな空間を思い出に浸り、新聞数紙以外ほぼ封印してまた読書始めに文集を拝読致します。そこで皆様と心の会話を出来る楽しみを戴き続けます。

“これからを支える礎“新しい旅立ちへのエールをくださいました。本当に、本当にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

係われた全ての皆様 良き日々をお過ごしの際 心よりお祈りいたします。

### 岡村廣正:

編集委員の皆様、ありがとうございました。お疲れ様でした。最近健康に大いに問題ありますが、囲碁は打てますので地域の囲碁クラブに出席しています。

長い間帰省できていません。金岩君、長い間 ありがとうございました。

### 小川 孝:

卒業後、すっかり御無沙汰のまま、60年を経過してしまいました。記念誌を拝読し、みなさまの御活躍・生き様の素晴らしさに感動致しました。振り返り自分を見るに慚愧の念に堪えません。当然良き事も悪き事も様々ありましたが、諸氏のような一本の筋が通っていません。まあ、これも人生かな

と思っています。

編纂された皆様に感謝です。 拝謝

### 荻原義重:

60周年記念式典及び記念誌発行等実行委員の皆様に改めてお礼を申し上げます。

本当にごくろう様でした。感謝です。皆様方の人生が記念誌の中に述べられていて、楽しく読ませていただきました。なつかしい高校時代がよみがえった気がします。

定年後長野県シニア大学で2年間学びある講師の方が「これからは肩書を捨て、一市民として生きることが大切です。特に〇〇長のついた方はご注意を」と。私は幸いにも〇〇長がなかったので、地域社会にとけ込み、いろいろの方々を手をつなげて、ボラ活動や交流活動などしています。ともかく健康な内は外へ出ること、人と交わることが大切と思っています。

### 小澤国宏:

それぞれの皆様の生き方を教えて頂きました。「人生に正解はありません」ね。長年お世話になった妻の看護に、ゴルフもやめて全力で尽くしています。

### 小野塚一馬:

ご苦労様でした。美しく、読みやすく、きれいに仕上がりました。楽しみに読ませて頂きます。

### 勝俣史子:

記念誌編集委員の皆様の甚大なるご努力に、心より感謝申しあげます。素晴らしい「60周年記念誌」です。人生経験、心情の吐露、様々な体験がぎっしり詰まった、読みごたえたっぷりの貴重な記念誌で、宝です。研究生活での困難、支えてくれた周りの方々、家族への感謝、高みにゆかれても、高校で生物を学ぶ大切さをあげられた高津聖志さんの「特別寄稿」、夫に尽くされた岩垂（熊谷）雅子さんの「ふと思うこと」なかなかできないことを成し遂げられ、尊敬いたします。また、ご両親が命懸けの逃避行の末、満州から引き揚げ、2歳の幼児を必死に守って帰国できたからこそ、今日があるとの原宏實さんの

「1946 ご両親への感謝等々、知り得なかった皆さんの人生を追体験致します。深志高校で過ごした様々なことが、思いだされます。

校歌と同期の皆様を思い浮かべ、残りの命を豊かに幸せに生きたいと思いません。

深志高校校舎正面のカラー写真は、変わらぬ佇まいで懐かしく、兄も卒業生ですので、先日コピーを渡しました。

良いものを作ってくださいました。本当にありがとうございました。

### 金岩博司:

「蜻蛉ヶ丘に集いて」第3集は記念集会のほぼ半年後にお届けすることが出来ました。

その要因は記念誌担当の百瀬武さんの手書きの原稿督促と伊藤光幸さんのデジタル技術だと思います。40周年の「蜻蛉ヶ丘」第2集から原稿を打ち込んで、データで印刷会社へ入稿していましたが、今回は伊藤光幸さんが原稿をPDFにして入稿しました。印刷屋さんの一番手のかかる部分を済ませて入稿ですので、印刷料金もかなりおやすくなり納期も早くなりました。今回の記念誌の立役者は伊藤光幸さんと百瀬武さんです。

### 上條勝己:

予想していた以上に立派な60周年記念誌を受取り嬉しくワクワクしています。ご苦労様でした。さぞ大変な労力だったと思います。

今後共出来るだけHPを続けてゆくとのことでありがたいことです。まだ楽しみが続くこと 人生が豊かになります。 早々

### 北川 健:

先ず以て記念誌の発行に御尽力いただいた方々に感謝申し上げます。読みごたえのある一冊になっていました。懐古録有り、笑い、感涙を誘う又、襟を正させる文章等々で有りました。

私は相変わらず岐阜と木曾を行き来して栗、豆、芋等を植えています。これからも体力が続く間、はそうするでしょう。

60年間、深志との絆を呼び起こし、忘れないようにしていただいた事務局の皆様へ深く感謝いたします。

最後に蜻蛉の丘に学ぶ若き方々に末長く栄光有らんことを祈ります。

### 吉川勝子:

㊦ 「蜻蛉ヶ丘に集いて」卒業60周年記念誌刊行

編集委員の皆様方の熱意と粘り強い投稿の呼びかけの賜物と感謝も申し上げます。

届いたその日に、一気呵成に拝読しました。次いで40周年記念誌と30周年記念誌「聡明の風さわやかに」を書棚の奥から引っ張り出し、それぞれの人生を想い、なかなかお顔は思い出しません、懐旧の念、ひとしおです。

6月20日～25日、気力、体力、金力？振り絞りインドネシア、ジャワ島、バリ島に行って来ました。異文化に触れ、非日常を楽しむ旅は最高です。これからも何とかやっています。6月30日受取人払いのハガキ締め切りの日に

### 久保田美恵子:

編集委員の皆様、大変ご苦勞様でした。なつかしく拝読させて頂きました。私こと八十路を前に不具合をかかえながらも何とか元気にやっております。皆様も健康第一にお過ごしください。

### 久保寺 勲:

立派な「あきつ会卒業60周年記念誌」の完成ありがとうございました。百瀬さんはじめ編集委員の皆様本当にご苦勞様でした。

首都圏あきつ会も、今年秋に多分最後となる会が予定されています。(幹事9組)傘寿を越え、仲間が一人二人と他界され、寂しい限りですが、自分が健康な内は親しい人達と会う機会を作りたいと思っております。

### 小岩井恭文:

感想

編集を担当された伊藤さんの“まだアナログ人間が多い”との指摘 PCの機種選択の際、機能のアレはいらない、コレもいらないと言っていた自分が思い当たりました。

内容は、身近に感じる同期生のこれ迄の断面を見せていただき、それぞれ感じるものがあります。とても貴重な一冊との感がしています。

#### 小林寿一:

文集に携わった方々、皆さんに感謝します。

#### 小林弘史:

60周年記念誌を拝読して同期の方々の学生時代の歩み、思い出がなつかしく思い出されました。お亡くなりなられた方々の御冥福をお祈りいたします。

幹事の方々大変ご苦労様でした。ありがとうございました。来月7月14日に80歳を迎え、家内の手術から介護生活ですが、1日1日を大切に、9月に明科の実家に家内をつれていくことを目標に頑張っております。機会があればその時にお会いしたいと思います。1日1日を大切にすこやかにすごしたいと頑張っております。金岩君に本当にありがとうございました。

#### 小松永泰:

記念誌発行委員の皆様 ご苦労様でした。すばらしい記念誌ができ、楽しく読ませていただいています。又、あきつ会にも顔を出したいと思っています。

#### 小松治子:

60周年記念誌を作って下さった、皆様に感謝しております。ありがとうございました。

#### 小松泰彦:

最後の文集完成に携わられた皆様方のご苦労に敬意を表し、多分もうお会いできない多くの方々の“ピンコロ”を祈念致します。ありがとうございました。

#### 島 利栄子:

『蜻蛉ヶ丘に集いて』（松本深志高校卒業60周年記念誌）完成おめでとうございます。読みごたえのある、熱い心のこもった、すばらしい記念誌！！夢中で読みました。何度も読みました。松本の役員の皆様が何度も集まり、討論し、真剣に取り組んで下さったおかげです。感謝申し上げます。物故者のご冥

福を祈りつつこれからの自分の人生を、1日1日を大事に心をつくして生きていきたいと思います。

第1集、第2集と併せて本箱に並べ「心の宝物」として大事にいたします。皆様お元気でまたお会いしましょう！

◎メールフォーム

『60周年記念誌』拝受いたしました。夢中で読ませてもらいました。素晴らしい！！です。役員の皆様のご苦勞に感謝します。

◎金岩宛 金岩様

「卒業60周年記念誌」拝受しました。素晴らしいですね。夢中で読みました。式典の様子を沢山の写真で見せて頂き、よかったです。

ハガキ風のお便りまで、多くの方の文章を紹介して頂き、よかったです。

これだけ集めるにはさぞ大変だったでしょうね。

物故者の紹介もよかったです。お悔み申し上げるとともに、自分の残りの人生に想いをはせることができました。細かいところにまで配慮が行き届き、役員皆様の暑い心が込められているように感じます。

役員の皆様のご苦勞に心より感謝申し上げます。役員の皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。金岩さん、どうぞお体大事になさってくださいね。

島 利栄子

関 貴和子:

60周年記念誌 お送りいただきありがとうございます。多くの同級生がすでに世を去った由、ご冥福をお祈りいたします。また、記念式典後の3名の訃報に接しとても悲しくなりました。渡部先生には深志高校で数学を教えて頂いて、お世話になった長女華奈子が東大理学部教授になり、宇宙研究に携わり、息子浩道が理三を出て医者となり、医療に携わっております。この前の会で先生にご挨拶をして、ご報告しようとおもったのですがご挨拶できず、果たせなのまま終わってしまいました。

袖山 紘:

編集から発送まで お疲れ様でした。

古い先も短い我々ですが、お互いに健康には十分留意しましょう。

## 高津聖志:

素晴らしい文集「蜻蛉ヶ丘に集いて」を拝受しました。発行を心よりお喜び申し上げます。編集にご尽力くださいました百瀬武様を初め関係者に心より敬意を表し、感謝とお礼を申し上げます。有難うございました。

深志高校卒業60年、各人各様の「思い出と人生経験」を拝読し、胸に迫るものが多いです。私も「恩師に学び、異分野に学び、研究仲間から学び、異国に学び、地方に学び、深志の仲間から多くを学びました。高校時代に培った初心と校則を忘れずに、健康に留意し過ごしたいと思います。これからも、よろしくお願ひします。皆様も、お元気でお過ごしください。ご多幸をお祈りします。

信州での生活にも慣れ、塩尻、松本の良さを再認識しています。

## 竹村 淳:

記念誌お送りいただきありがとうございました。

## 田島俊彦:

事務局の皆様 本当に有難うございました。殊に金岩さんにはお手数おかけしました。感謝しています。記念誌を手にして色々な思い出があったと感無量です。

### 近況

この3月、中学校の同級生と京都で再会した。深志では同期で大学時代迄取り取りは続き、大学卒業後暫くして大阪に転勤。出会いの機会もなく半世紀以上経った。音信不通の中でも記念誌が届くたびに投稿記事で近況を知った。卒後60周年記念誌の締め切りから数日後に貰った電話。飛び上がる程喜んだが現実には東と西に隔たってる為、京都のお子さん宅を訪れた際であればと話が進んだ。当日、一瞬で少年から青年時代の往時に戻った。日常事から学び競い合った友達、大学生活と記憶の頁を開き合った。智積院で長谷川等伯絵師一門の国宝障壁画を鑑賞。東山を望みつつ鴨川べりの店で食事。思えば「俗世」の垢に染むことなかれという深志の教えや校歌に謳う「濁世」など知る事もなかった無垢の時代にタイムスリップしていた。今では、お孫さんに囲まれ人柄そのままに敬虔なクリスチャンとなって信仰活動もしていると言う。穏やかな笑顔は若き日のままだが、凜然とした風格は正に女士。素直に心の中で最敬礼。贈られた「きぼうの星」は、聖書の言葉が載っている花の画集風小冊子。傍ら

に置きながらも終活に勤しむ身に、素晴らしい時を与えてくれた神仏に感謝しているこの頃です。

### 田村正勝:

謹啓 すばらしい「60周年記念誌」を有難うございます。

祈念式典の模様と出席者をはじめ微に入り細にわたり、お心遣いをいただき、感じ入りました。

また、会員名簿に、執筆者のページまで載せられ、読み易くして頂いたことも有難く存じました。

小生はお陰にて元気にアタフタ生活を続けております。毎夕のジョキング、土曜日のテニス、庭いじり、執筆、少なくなりましたが遠路の講演にもでかけます。

お互いに身体に気をつけ、再会を期しましょう。

謹白

### 辻村 洋:

大変なお仕事だったでしょう、ご苦労様そしてありがとうございました。

懐かしい名前やエピソード等、どのページを開いても 瞬時に昔にタイムスリップしました。

思いの他 泣きなられた方の数が多くてびっくりしました。生来の心臓病で短命を医者からも告知されていた自分がこの年まで生きていることが申し訳なくおもわれます。

### 堤 十九夫:

60周年記念誌ありがとうございました。深志15回あきつ会の原会長を始め、記念誌を担当された皆様には、心から御礼を申し上げます。

卒業 20, 40, 60 周年の「蜻蛉ヶ丘に集いて」には、いつも励まされ、人生を歩んで参りました。今80歳を目前にして、子供や孫や曾孫に恵まれ、何とか暮らして行けることは、この上ない幸せと感じています。これからも、元気で居る限り「蜻蛉ヶ丘に集いて」を時には読み、励まされて行くと思います。人にも、物にも、時間にもすべてに感謝の毎日です。深志15回あきつ会の皆様にも深く御礼を申しあげます。有難うございました。

### 鳥羽郁夫:

編集委員さん、大変お疲れ様でした。

### 中澤忠夫:

卒業60周年記念集会、盛会だったとのこと（欠席でしたので）たいへんうれしく思っています。また、記念誌の発行、大変ご苦勞様でした。関係皆様の御努力に感謝です。

### 中島 衛:

記念誌 感慨深く読ませていただきました。皆さん それぞれに充実した老後を楽しんでおられますようで、私もこれからを心身ともに元気で過ごしたいと思います。

年ごとに故郷は遠くなってしまいましたが、やはり高校時代の思い出は忘れがたいものがあります。

### 新村敏夫:

記念誌を完成に努力していただいた原君、金岩さん、伊藤君、百瀬さん、ご苦勞様でした。完成した誌を読んで感じたことは、60年たっても深志卒業生は本当に真面が素晴らしい目な、特に「考え方」「整理の仕方」が素晴らしい人達でいっぱいでした。自分自身も心静に病と付き合いながらもう少し頑張っていきたいと思います。

### 野村（青柳） 端子:

立派な60周年記念誌をありがとうございました。文集作成に努力された方々に心より感謝申し上げます。私は時折、会に参加する位でしたが、この文集を読み、皆さんの人生を改めて感じ、とても心強く思っています。90歳の小野先生の「現状を認めてノホホンとしてはいけない」とのお話は耳に痛く感じ、再度心して、社会に向きあってゆきたいと思っております。過去をなつかしむのではなく、命ある限り諸現実に向きあって行こうと思えます。

皆さまもお元気で、機会があればまたお会いし、活力をいただきたいと思えます。

羽田美代子:

記念誌お送りいただきありがとうございました。

林 昂子:

編集委員の方々の御苦勞の賜物の記念誌ありがたく拝見し、素晴らしい人生を送っていらっしゃる皆様の文章、抜粋ではありますが読ませていただき、自分の雑な投稿文を恥ずかしく思います。特に小野先生の御健在ぶりを拝見出来たのはこの上ない喜びです。「一行でもいいから」と原稿の催促を受けた時、実は私は夫の病との戦いの最中で文章を書く気分にも、内容を検討する頭も廻らない状態で走り書のような粗末な原稿で恐縮です。膵臓頭部癌が見つかり余命半年～一年と診断され、高齢（84歳）なので、西洋医学的には ope もせず対処療法のみで（経過）する方が本人の身体の負担もないと言われ、以前よりお世話になっている中国医のもとで東洋医学的治療を受ける事とし、週2回札幌まで通院している時期でした。その夫も3月までは車椅子で旅行にも連れて行ったりしていたのですが4月に入り、急に食欲が落ち入院となり、私もここ2ヶ月、仕事を週1回に減らして、毎日午後3時間の面接のため、札幌に通っております。「ドライブに行きたい」と言う夫をなだめて、ストレッチャーで院内散歩のみで我まんさせ、緩和ケアの「今までの生活環境に出来るだけ近づけたケア提供に配慮」とうたい文句はどうゆう事なのかと試行錯誤の毎日です。落ち着いたら(?) ゆっくり読ませていただきますが、感想を述べる資格もないつたない感想と近況報告でごめんなさいね。

追伸 10日16:35 夫は2か月の闘病の末 旅立ちました。

林 政弘:

「蜻蛉ヶ丘に集いて」をよみました。分からない人は、会員名簿で見ました。

樋口明朗:

今回の60周年記念誌非常に素晴らしい出来映えだと思います。関係者の方々にお礼申し上げます。近況：相変わらずです。

## 樋口満志:

60周年記念誌 有難うございました。高校時代の出来事を懐かしく思い出すことができました。皆様の御尽力に感謝申し上げます。

## 平岡 武:

今回、編集を手伝って本当に楽しかったです。

この2,3日、黄色くなった井上靖の「海峡」という文庫本を読んでいます。この時期、舞台になった下北半島の突端の大間という町に行ったことを思い出しました。

「海峡」が出版されたのは、昭和33年。私が読んだのは高校生の時だったと思います。小説ばかり読んでいて、成績がガタ落ちで、小学校の時の担任の先生が何処で聞きつけたのか、我が家をたずねて来てくれたとの事。「先生とても心配していたよ」と母親が私の顔を覗き込みました。

大学生になって、5月の連休が終わって、行って見ようと思い立ち、5月ですから「鳥の渡り」など無いのですが、上野から夜行の鈍行に乗りました。

小説の中に出てくる3人の変な男たちが、「シギ」の集団が半島の突端から、次々に、海峡の闇の中に突入するのを見ていた現場に立って見たかったからです。今、「海峡」を読み直して見て、長生きして、もう1度、雪の大間に行つて見たいと思いました。

## 藤崎 晃:

記念誌頂戴いたしました。(¥3000振込ました) 発刊に寄せての百瀬武さん、編集後記の伊藤光幸さんの文章を拝読し、完成迄の長期間の編集に携わって頂いたみなさんのご尽力に深く感謝申し上げます。

早速、小野先生の特別寄稿から会員119名の投稿、51名の近況報告まで読了いたしました。三村さんの「麻雀放浪記もどき」を始め多くの方の「振り返り記」等々面白さ、驚き、懐かしさを覚えつつよみました。

私の深志時代は怠け者、劣等生でしたが、深志生だったのだ、深志で良かった、と改めておもいます。そのことを自覚させてくれた編集委員の皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(追記) 私の原稿が字数制限 over だったのか、途中で切れており少々残念に思いました。

\*編集委員のミスです。藤崎さんには大変なご迷惑をお掛けしました。  
あきつ会通信と共に藤崎 晃さんの「来し方を振り返り」全文を送らせて  
いただきました。(編集委員会・あきつ会事務局)

### 藤村節夫:

第3集、有難うございました。大変な作業だったと思いますが立派なものを  
短期間に仕上げてくださいましたことに敬意と感謝。本日送金も完了致しました。

早々

### 星野茂子:

5/19(日)1 週間遅れの母の日で次男が花束を持って来た。「ポストにこれ入っ  
てた」「日曜日は配達ないはずだけど」みると“記念誌”嬉しい日になりました。  
式典は五島列島旅行と重なり失礼し、文集も原稿を提出せず、申し訳ない事を  
したと思っています。

ここ15年以上ジョコビッチ(テニス)を応援し、元気をもらってきました。  
が今年は何今日5/23もジュネーブ大会準決勝で負けてしまいました。5/26か  
ら全仏が始まります。健闘を祈るばかりです。

### 牧田英稔:

立派な記念誌を作成して頂き有難うございました。又、編集委員の皆様お疲  
れ様でした。まだ全てを読み終っていませんが、卒業後60年の時を様々な生き  
方をしてきたのだなあと、感激深く想いながら読んでいます。

この春行けなかったオーストラリア・ニュージーランドへと老体に鞭打って  
行くことにしていましたが、妻が脊柱管狭窄症を患ってうごけなくなり、断念  
するに至りました。「縁が無い国なんだ」と言いながらリハビリに励んでいる  
ところです。

松本にはもう十数年帰っておりませんが、兄弟姉妹が元気なうちに、一度は  
墓参りがてら帰りたいたいと思っている今日この頃です。

### 馬淵勝利:

記念誌確かに受領致しました。編集委員の方々 本当にご苦労様でした。  
厚く御礼申し上げます。「製作費負担分(3000円)は近日中に振込ます。」

## 丸山 明:

高校はどこですか？と聞かれて、控えめに「松本」です。と言ったら、「まつもとふかし」ですか？と言われて、「そうです」というと、「すごい！」と言われました。全国どこへ行っても「深志」を知っていました。

今回60周年記念誌をすべて読みました。さすが深志の卒業生と改めて感動しました。みなさんさまざまな立派な人生を歩まれている。この文集、なかには難しい内容もありましたが、殆どの皆さまは分かりやすく、真正直に書かれておりました。ユーモア溢れるもの。中にはウルッと来るものもあり涙がこぼれました。僕も皆様のようにもっと頑張ればよかったなどと今頃反省しています。でもほどほどに頑張ったから今のように健康寿命を保っていただけるんじゃないだろうかなんて納得もしています。編集委員の皆さま、本当にお疲れさまでした。ありがとう！

## 丸山小百合:

りっぱな記念誌ありがとうございました。そうとうな苦労がおありでありました事と思います。皆様の文を読み、これからの人生の指針となる事が多くありました。

特に日野原先生の著書よりの“自分がいやになったり理想がかなわない時、努力しても変えられない現実があったときにも自分を大切に、自分を受け入れ一生懸命やり遂げる真心をこめて生きぬいた時、神様が働いてくださる。そう信じて委ねる事、今の心のかてとなる言葉を見つける事ができました。

長年に亘る御無沙汰をお詫びしつつ、皆様のこれからの御健勝を心よりお祈り致します。

## 丸山妙子:

「深志卒業60周年記念誌」をありがとうございました。編集者の皆様的一方ならぬご苦勞に感謝申し上げます。

一気に読みながら、「いいな～」と感動共感するところに黄色いシールを張っていったら、黄色のシールが帯に。

皆の心は深志の学び舎に集中し、その後の60年の人生で出会った人間模様のお話は縦横に編まれた反物のように美しく、想像を逞しくしながら読ませて

いただきました。翻って自分の文章は、時間軸がぶれて、推敲不足、人間関係も欠落していて恥ずかしい。

人並に医者 of 厄介になっている昨今。でもやりたいことは山とある。既に天に召された友を想いつつ、今後迎えるさまざまへの対処に、覚悟をするところです。

八十路を前に。これまでの人生に共に感謝。

2024年5月20日

### 水上敏子:

記念誌、刊行大変ご苦勞様でした。沢山の写真から懐かしい方々にお会いできてうれしいです。とても内容も充実し楽しく読ませて頂いています。本当にありがとうございました。

### 水口裕敬: ?

先ずは本記念誌の発刊に御尽力されました皆様方に御礼と感謝の意を表します。

十人十色と申しますが本記念誌の会員の皆様が綴られたエピソードや成功体験、失敗体験等を興味を持って拝読させて頂きました。

深志高校での出来事や思い出、社会人として歩まれた喜びやご苦勞、家族や友人との係り、健康や病気、昨今では当然の事ながら残された人生に向けての計画・願望や不安要素等多くの事柄が語られていて、随所に思いを寄せられました。

中に、自分と同じ目標が掲げられているのを見つけた時は勇気を頂いた思いでした。

60余年前のトンボ祭キャンプファイヤーのフィナーレを思い起こし、素晴らしい環境の中で過ごせた青春時代に感謝する次第です。

終わりに既に2割に近い物故者の皆様方に哀悼の真を捧げます。

### 水谷徹理:

記念誌製作ご苦勞様でした。読みながら、昔の友の名前が有り、懐かしさが込み上げて来ました。私も、遠くへ出かけませんが、安曇野で西に常念岳を見ながら米作り、野菜作りをしています。皆様のご健康をお祈りいたします。

## 宮下直子:

記念誌をありがとうございました。ついに完成しましたね。

“おめでとうございます。”

レターパックを開けた途端、緑が美しく懐かしい母校が目に入り胸が震える程の『感動』にしばらくは記念誌を手にしたまゝでした。ゆっくり楽しみながら拝読させていただきます。まずは御礼まで。

(百瀬 武宛)

前略

“蜻蛉ヶ丘に集いて” ずっしりと心に響くこのタイトル、そこに映る緑に輝く懐かしい学び舎、文集の表紙だけでも今更の様に60年も前なのに美しい映像となって「高校時代」を彷彿とさせてくれました。それだけでも胸が熱くなり涙がにじんできました。この様に立派な文集になったのも文集係の方々の並々ならぬ尽力の賜なのです。30人足らずの投稿から始まった原稿集めが119人にまでなったのは、百瀬さんの熱意が伝わったからだと思います。集まった種々に異なる様式の前稿を印刷屋さんへ渡すまでの伊藤さんのご苦勞は想像もつかぬ程に大変だったことと察せられます。

これだけの内容を校正することは思っただけでも頭が痛くなりそうです。昨年8月以降、計画当初から集まりを重ね、特に校正においては数多く集まり、ついに「完成」に至るまで、約9か月以上をついやしたのですよね。文集委員5名の方には深く深く感謝申し上げるばかりです。旅行、通院（主人の付き添い）、所用のため、ここにきてやっと、ゆっくり読むことができました。

文集作成のご苦勞を想い浮かべながら一気によみました。卒業後60年の月日の流れに、お一人、お一人の人生模様が手に取るように伝わってきて、強く胸をうたれました。

卒業後の大きな社会の変化の中であって、皆さんが深志での学びを心の糧として誇りある生き方を求め歩んできたことがよくよく分かり感動しました。正しく百瀬さんが仰有る様に、経糸と緯糸による15回生の「魂の叫び」ともいえるのではないのでしょうか。読み終えて、しばらくは胸に厚く迫る余韻に浸っておりました。この様な誇るべき文集は他には見当たらないでしょう。全ては礎となっている「深志高校15回生の心の絆」の結晶、集大成といえるでしょう。

今後、私の生きる指針として、時折、この素晴らしい文集を読み返していこうとおもいます。最後に今日までの長期間、15回あきつ会を支えてきてくだ

さった事務局の皆様にご心より厚く御礼をもうしあげます。

百瀬さんの他の文集編集委員の方々にはお手紙をさしあげておりませんので、恐れ入りますが、百瀬さんから、よろしくお伝え下さるとうれしくぞんじます。

こちらでは紫陽花が美しく色を付け始めました。もうすぐ、うっとうしい梅雨の時期に成ります故、どうぞご自愛ください。かしこ

6月2日

宮下直子

百瀬 武 様  
追伸

委員の皆様は今 長期に渡る重く辛い肩の荷を下ろしてよろこびも感慨もひとしおのことでしょう。本当におつかれ、ご苦労様でした。

百瀬 明:

幹事の皆様いつもご苦労様です。立派な記念誌、楽しく、懐かしく読ませて頂いています

百瀬 武:

文集により記念大会の実施内容、模様（写真）のったので、出席できなかった人もどんな会であったかわかると思う。原稿を出してくれた人の文章は60年に及ぶ経過がしるされている。また、名簿がのったことで同期生の現在、亡くなった人のことも分かる。同期生の80歳のしるしとなった。

百瀬七男三:

60周年記念誌を読んで、回想あり、現況報告あり、人生訓あり、恩師・友人への思い等々…実に多士済済の作品集であること痛感しました。又、記念誌の編集、発刊に当たり役員の方々の尽力に敬意を表します。

百瀬幸子:

立派な60周年記念誌ありがとうございました。皆様ご苦労様でした。何回も投稿のお誘いをいただきましたのに筆不精になり、とうとう失礼してしまいました。なつかしい皆様のお写真と名前を拡大鏡で眺めながら、往路をしのんで居ります。小野先生の“りん”としたお姿に感服いた

しました。

15回生の皆様のご健康とご多幸をずっと祈りつづけてまいります。

柳沢深史: ?

各位のご活躍拝読させて頂きました。

之なりに会社人生を送り 今は田舎の家庭菜園へ週一通いながら、スイミングと地域ボランティアで頑張っています。

吉澤国雄:

記念文集読みました。卒業後のそれぞれの人生がかかれています、昔と今を追憶できました。

淀 照隆:

記念誌に関係した方々おつかれさま、そしてありがとう。久しぶりに校歌を口ずさみました。

記念写真を見て、皆さん年を取ったなあと当たり前のことに納得しました。

「第15回あきつ会」を支えて頂いた皆さんにも改めてお礼申し上げます。

コロナ騒動を境に、生活パターンが急変し、行動範囲が狭くなってしまいましたが、体を少しでも動かす方針にかわりはありません。自分の役目が終わるまで頑張るつもりです。では皆様もお元気で

輪湖郷史: ?

私が経験しなかった次の方々の宿命的な又は予想不可能な体験談に感銘をうけました。

小松永泰氏、竹川氏、原氏、金岩氏、上條氏  
立派な60周年記念誌をありがとうございます。